

22	▼ Fedora 20と"Heisenbug"
200	1. わたしは特にFedoraのファンではないが、そのコードネームはハッカーっぽくておもしろい。 バージョン17はBeefy Miracle、18はSpherical Cow、19はSchrödinger's Catと名付けられた。 新しいコードネームをつけるときは、前バージョンに関連するワードを入れるという規則がある。 17→18では「牛」、18→19では「動物（もしくは科学用語）」という関連がある。
88	2. Fedora 20は「Heisenbug」と名付けられたそうだ。 [Phoroxin] Fedora 20 Will Be Named After A Software Bug
349	3. 一瞬、Heisenberg（ハイゼンベルク）のtypoかと思ったが、どうやらHeisenbugで正しいらしい。 Heisenbugはいわゆるジャーゴンの一種で、「それを調査しようとするに変貌したり消えたりするバグ（Wikipediaより）」を意味する。 量子レベルでの物理学においては、ある対象を観察しようとする、観察する行為自体が対象の状態を変えてしまうため、正確に観測ができないことがある。 たとえば、ある素粒子を観察しようとして光を当てたとする。光は光子として対象の素粒子に飛んでいき、素粒子にぶつかってしまう。その結果、素粒子の動きが変わってしまうわけだ。 なるほど、Fedora 20は19でのSchrödinger's Catに対して、量子論つながりでコードネームが決められたらしい。
390	4. 余談だが、RailsアプリでもHeisenbugを埋め込んでしまうことが よくある 。特にデータベース周りは危ない。 ActiveRecordがDBをラップしているので安心かと思いきや、パフォーマンスのために込み入ったことをしようとすると、生のSQL文を書かなければならないことがある。 ActiveRecordを使っているのに生SQLを書くことは本来あってはならないことであるが、それなりに規模の大きいアプリケーションでは、どーーーーーしても書かないといけない場面に出くわす（これは 体験談 である）。 development環境ではSQLiteを使い、production環境ではPostgreSQLを使うというような場合、これが問題になる。 「手元の環境では期待通りに動くのに、本番環境にデプロイしたらバグる！なんで！」 と叫びながら、頭を壁に打ち付けるハメになるのである。
32	5. <div>本当に、Heisenbugとはよく言ったものである。悪い冗談だ。</div>